

10月のアルミレポート及び11月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



■概況

【自動車】9月の四輪車生産台数は85万5123台で、前年同月比プラス1.7%となり12か月連続前年同月を上回った。輸出は42万3721台で前年同月比マイナス2.6%だった。

【販売】10月の国内自動車販売台数(軽は除く)は、23万1563台で前年比マイナス4.7%。3か月ぶりのマイナスとなった。その内訳は、乗用車がマイナス4.4%、貨物がマイナス5.8%、バスがマイナス15.4%となっている。

【住宅】平成29年9月の住宅着工戸数は8万3128戸。前年同月比で2.9%減となった。また、季節調整済年率換算値では95.2万戸(前月比1.0%増)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で3か月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

〈持家〉前年同月比では4か月連続の減少(前年同月比2.7%減、季節調整値の前月比では1.6%増)。

〈貸家〉前年同月比では4か月連続の減少(前年同月比2.3%減、季節調整値の前月比では2.5%増)。

〈分譲住宅〉前年同月比では4か月ぶりの減少(前年同月比5.3%減、季節調整値の前月比では1.9%増)。分譲マンションは、前年同月比では4か月ぶりの減少(前年同月比9.2%減)。分譲一戸建住宅は、前年同月比で先月の増加から再びの減少(前年同月比2.2%減)。

【アルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績】前年比でマイナス0.2%の6万9484トン、3か月ぶりマイナス。出荷はマイナス1.3%の7万110トン、2か月ぶりマイナス。その内訳は、出荷先別で鋳物がプラス1.5%、ダイカストがマイナス2.4%、板がマイナス0.4%、押出がプラス10.6%、鉄鋼がマイナス9.7%、合金地金メーカーがマイナス0.3%となっている。

【アルミ圧延・押出品生産数】日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比マイナス0.9%の17万374トン、11か月ぶりマイナス。板類の生産は11か月ぶりにマイナス、出荷は2か月連続でマイナスとなる。

それぞれの品目でみると、缶材は3万5101トン、マイナス3.1%。先月に続き天候不順の影響でビール系飲料が減少し、2か月連続のマイナスとなった。自動車は、1万4425トン、プラス8.0%。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、7か月連続でプラス。8月の軽自動車を除く国内乗用車生産台数は49万6千台、前年同月比でプラス4.4%。輸出は、1万5457トン、マイナス7.9%。前月は前年並であったが、今月はマイナスに転ず。押出類は生産、出荷とも11か月連続でプラス。建設は、4万97トンマイナス1.2%。先月に続き天候不順の影響で建設工事が停滞したこ

ともあり、2か月連続でマイナス。自動車は、1万2309トン、マイナス0.2%。11か月ぶりにマイナスとなったが微減であり、需要自体は堅調に推移。

【輸出】アルミ新地金が前年比プラス1.9%の1165トン。二次合金がプラス1.4%の1803トン。スクラップがマイナス8.4%の8816トン。アルミ缶がマイナス14.9%の5182トン。

【輸入】アルミ新地金が前年比マイナス5.0%の12万105トン。二次合金がプラス12.2%の10万1465トン。スクラップがプラス122.7%の501トン。合金スクラップがプラス36.0%の3112トン。

■見通し

自動車は生産がプラス1.7%。国内販売台数が前年比マイナス4.7%。生産が12か月連続プラス。販売が3か月ぶりマイナス。生産の12か月連続プラス今後も続くかどうか、注意が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比でマイナス2.9%と3か月連続マイナスの下げ傾向かどうか、今後の動向に注目。

アルミ圧延・押出品生産数では、板類・押出生産合計が前年比マイナス0.9%の17万374トン。11か月ぶりのマイナスで今後の動向に注目。

アルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績では、前年比マイナス0.2%の6万9484トン。3か月ぶりのマイナス。出荷がマイナス1.3%の7万110トン。2か月ぶりのマイナス。生産量は3か月ぶりマイナス、出荷量も2か月ぶりマイナスで、今後の動向に注目。

アルミ輸出は、自動車生産の好調を受けて全体的に減少。アルミ缶も韓国輸出が減少。

アルミ輸入は、内需の好調を受けて増加。

【スクラップ需給予想】流通在庫では、自動車生産などに比べ、自動車販売、住宅着工が不調だが、ここ最近のLME価格の高止まりを受けて輸入塊が高止まりし市中玉は不足気味ではないか？

需要面に関しては、自動車の生産は好調、販売も2か月連続の増加、ここ最近の地金の高止まりを受けてメーカーが積極的に使用してきた輸入塊が割高になりスクラップ需要が高まるのではないかと？

【価格・為替予想】今月は米国政府の税制改革の進展やトランプ氏のアジア外交後の北朝鮮問題に左右される。

米国の税制改革問題に関しては、上院共和党が法人減税の実施を1年先送りすることを検討していると伝わったことから政策の先行き不透明感が意識された。

北朝鮮問題に関しては、アジア外交で日韓ともに北朝鮮問題への連携を強める発言が出ていることからミサイル実験などが行われる可能性は高いのでは？

これらを踏まえた11月のアルミ価格は、米国税制改革が順調に進み、北朝鮮が軍事的アクション【4面に続く】

を起さなかった場合、先月一段高値の2300ドルを予測。いずれかの場合は2100ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安値の2200ドル。

為替は、同様に米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。米税制改革に関しては上記理由から年越しの可能性が高いのではないかと？

北朝鮮情勢に関しては、トランプ大統領のアジア外交発言から更に悪化が進むのではないかと？

それらを踏まえ予測は、米税制改革問題に向けての審議が予定通り進み、北朝鮮情勢で悪化がなかった場合、円安値は9月後半安値の115円台（TTM）を予測。いずれも行われなかった場合、同高値の111円台を予測。

スクラップ購入価格に関してはプラス5円～プラス10円程度と予測している。

【10月のアルミレポート及び11月の見通し終わり】